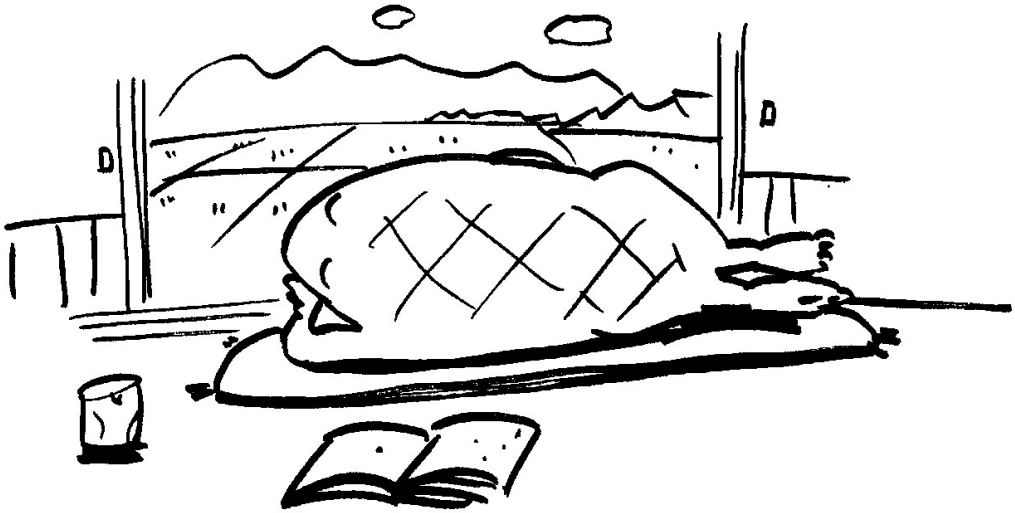
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶま～ゆ会報 **No.18** 2004年７月10日発行



ま～ゆ 連絡先　　代表 安 井 啓 子

〒386-0001　　上田市 上田 2576-16

TEL/FAX　　27-3186

メールアドレス　　ma-yu@po9.ueda.com

ホームページ（検索エンジンで 地域通貨 ま～ゆ を開いてください）

ま～ゆ畑の大豆で味噌作り

6月17日、朝起きると青空が広がり、絶好の農作業日和となりました。心うきうき車を走らせると、早くもま～ゆ畑の土手には田んぼプロジェクトのメンバーが腰をおろして待っていました。

先月田植えをしたま～ゆ田んぼの苗もしっかり根付き、青々と稲らしくなっている様子を眺めながら、まずは仕事前のお茶をいただいてからの作業開始となりました。

懐かしい風景のなかで「たんぼプロジェクト」が棚田で大豆の種まき

蚕都くらぶま～ゆ

遠くに北アルプスが見える棚田で作業

蚕都くらぶま～ゆの「たんぼプロジェクト」では17日、上山市須川区の自分たちで開墾した棚田で大豆の種まきを行った。須川区の棚田を借り受け、開墾して3年目。藪になって荒れ果てていた6枚の棚田には、いまは先月山植えしたばかりの苗が、気持ちよさそうに風にそよいでいる。

自分たちで食べるものを自分たちで作ろう―と、畑を探していたプロジェクト。会員の中島邦夫さん(59)は「条件のいいところは他にもあったが、遠くに北アルプスも見える里山の景風景に魅せられて、この地を選んだ」と顔をほころばす。その横で自分の畑は、手入れもしないで…と、笑いながら茶々を入れる橋詰善男さん(59)。

田植えは5月30日に、38人が参加して行われた。田植えから農作業に病み付きになったという大久保裕子さん(56)は「それまでは、ま～ゆのお客さんだったけれど、手植えの山植えに昔を思い出して…」と微笑む。この日は6人ほどが集まって、5枚の畑に来春、味噌を仕込むための大豆の種を蒔いた。

青空、鳥の声、風の音、小川のせせらぎ。遠くの畑でクワを振るう婦人。懐かしい光景が眼の下に広がる。仕事の前の一服に、「山へ来てお茶を飲むのがいいだよ」と柴田博さん(81)。畑を貸している手塚幸雄さん(94)は「後継者がいなくて何十年もほったらかしになっているから、畑は山みたいになっちゃって入れない。藪だらけのところを、よく開墾してくれた。でもこれから、こういう人たちが増えてくるんじゃないかい」と嬉しそうに語っていた。

鳥よけの薬をまぶした大豆の種を分けてもらい、土手の草を刈る人、畝をつくる人、そして種を蒔く人等々 それぞれ手際よく作業が進み、数枚の小さな畑はあっという間に蒔き終わりました。種も充分に間に合い、離れた場所の大きな畑も蒔けたので、来年の味噌作りの大豆は充分間に合うということでした。後は天候に恵まれ豊作を期待するのみです。

澄んだ空気に青い空、きれいな水と緑に囲まれた環境で育った大豆で、手作り味噌を味わうことができるなんて夢にも思いませんでした。

子供の頃は、田舎ではどこの家にも手作り味噌があり、味噌仕入れの時期には近所中が寄り合い順番に仕込んでまわり、当然子供たちもおばさん達の間に入って手伝わされたものでした。自分の家の畑で採れた大豆で自分の家で蒸かした麹を入れ、自分の家で採れた塩漬けの野菜を入れておくと美味しい味噌漬もできていました。そして誰もが自分の家の味噌が一番美味しいと思い、それを食べるのが当たり前だと思っていたことが、いつの間にか味噌はスーパーのパック入りを買うことに抵抗がなくなっておりました。ま～ゆへ仲間入りさせていただいたお陰で、今年初めて味噌作りに参加でき、忘れていた大切なことを思い出させていただいたような気がします。

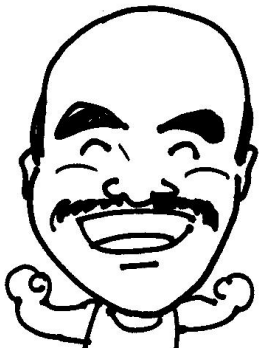
豆蒔きを終えて帰ってから、早速に春先に仕込んだ味噌のご機嫌を伺うと、表面には少しカビが発生しておりました。丁寧にふき取り再度殺菌して密封しましたが、カメに仕込んだ味噌は熟成もすすみ十分美味しくなっておりました。プラスチックの容器でビニール袋に入れて仕込んだ味噌は、麹のつぶも硬くまだ味がでていませんでした。でも、このまま順調に熟成してくれれば、秋には美味しい手作り味噌が食べられそうなので感激です。

そして、やっぱり来年は奮発してカメを買おうと、今から来年の味噌仕入れを楽しみにしているところです。

No.138 大久保裕子

楽しかっ田・苦しかっ田

No.96 孫の手こと宮島由幸



田植え前は、連日天気のよい日が続き、私は、安井宅のウッドデッキの屋根のタキロンを取り付けていましたが、足をとられるので腰が痛くなり、翌日の田植えはがんばらないで、参加のみにしようと思っていました。

また、田植えは中学生ぐらいのとき、たまにしかしなかったので、ま～ゆの田植えは、何十年ぶりなのです。

都々平さん夫妻と私の３人で車に乗って須川に着くともう大勢の人がいて、ごんべえさんがニコニコして来ました。

私は、せめて田植えはしなくても、支度は八分にしようと、編み笠と、半ズボンと、地下タビ姿で畦に立ちました。

田には水が張られて代がかかれていたので、様子を見ていると、上の方の田に５人ほど入り、植え始めていました。

私は、苗をとり、細かく分けて田の中に入り、ごんべえさんが綱を張り、橋詰さん・ごんべえさん・木下さんのチームに入りました。木下さん・ごんべえさん・私・橋詰さんの配置で植え始めますと、私は昔を思い出して、行きはゆっくり 帰りは早く植えることにしました。人より早く植え終わると腰が伸ばせるので、それを実行すると作戦は成功、ゆっくり腰を伸ばすことが出来ましたので、心の中でしめしめと思いました。

すると、ごんべえさんを柴田さんが呼びにきて「苗があったら長野大学の田んぼのにしよう」と聞きにきたので、ごんべえさんは途中で抜けていってしまいました。初めて参加した隣の木下さんと私の持ち場は長くなり、２人で長い間を植えていくことになりました。最後まで植えるところが残り、橋詰さんには「早く、早く」と綱しろを持ち上げられるので、**植えても、植えても、**木下さんの持ち場が広く残ってしまうのです。

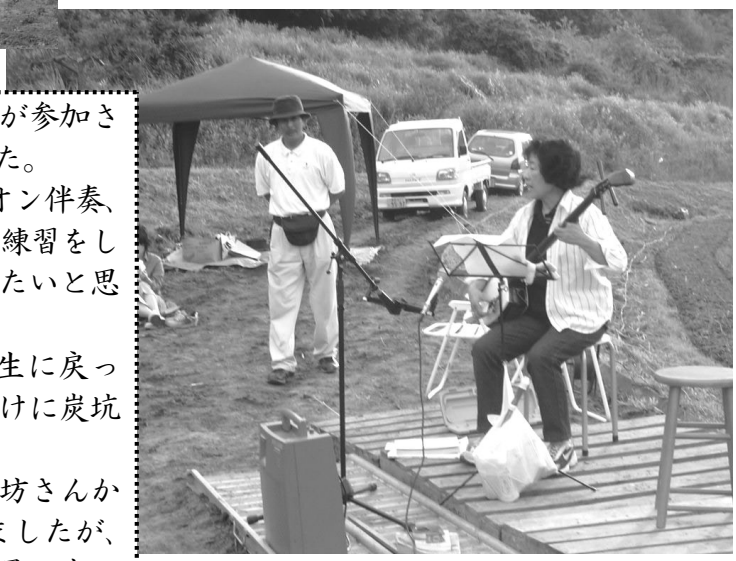
腰が痛くなったところに西さんが見えて、ごんべえさんの場所へ入ってくれたので「やれやれまた４人になって良かった」と思いきや、西さんは植え残しの補充に、畦ぎわの植えに行ってしまい、また３人で**長―い**畝を植える羽目になりました。土手では、木下ハルコ女史が音頭をとり、土手からスベリ落ちたり、田の水が多いので苗が埋まり、どこに植えたか分からず、そんな苦労もしました。

ごんべえさんのチームに入ったのを、後悔しながら２枚の田を植えて、隣のチームを見ると、そこには西さんが女性に挟まって、７人程で植えているではありませんか。

「やっぱり女の人がいるほうが華やかでいいな」と思い、腰がいっそう痛くなる一日でした。来年の田植えには、「ごんべえさんのチームには**絶対入りたくない**」「プロ級の**早乙女と一緒がいい**」と固く決意しました。昼は、料理班の揚げたてんぷらが一層旨かった。

夜、風呂に入り、痛くなった腰をもみながら、須川の田の稲が豊作になるように願い、苦しくも楽しい田植えの一日でした。

須川 ホタルと歌う夕べ



ホタル祭りは寒い中をたくさんの方々が参加され、(40人ぐらい？)大変楽しいひと時でした。

むかしとった杵柄のはずのアコーディオン伴奏、やはり昔々のお話でした。この次はもっと練習をして、どんな曲にもつきあえるよう、頑張りたいと思います。

おしまいのほうでは、久しぶりに高校生に戻って、ジェンかとオクラホマミキサー、おまけに炭坑節は良かったですね。

帰るときには、ホタルが舞い始め、(ひろ坊さんから、何でそんなにこだわるのかと聞かれましたが、幼い頃のあの群れたホタルの幻想的な風景が忘れられず、そして、それだけ川がキレイ、水もキレイ、という環境の変化に対する思い入れですね)

こんな里に住んでいる須川の人々は本当に平和で豊かだなあと実感しました。　　No.4　いじこ

自然観察会に参加して

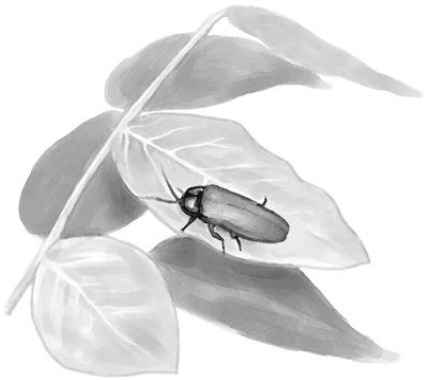
№130 ヒデさん

ま～ゆたんぼの入口から「ホタルと歌うタベ」の会場までの道のりを斉藤文子さんの案内で山野草を観察しながら歩きました。

私とかみさんは２～３分遅れで到着したため、説明が済んでしまった分を親切な都々平さんが自慢げに教えてくれました。

下野（しもつけ＝栃木県）で発見されたというピンクの繊細な花 シモツケ、源氏ボタルも入れそうなちょうちん形の紫の花ホタルブクロ（白い花もあります）、葉が松葉に似ているカワラマツバ、根が丈夫で馬をつないだというコマツナギ、小さな青い花が塔のようにたくさん付いていて、その小さな花をよく見ると弓の矢を入れる「うつぼ」に似ているウツボグサ等々。

初めて参加した私たちにとっては知らない花ばかりで、とても一遍には覚えきれませんが、「あの花は何だろう？」「きれいだけど何でしょう？」という不毛の会話から脱出するきっかけになりました。ありがとうございました。



ま～ゆな人

№55　前田美枝子さん（通称ミーすけさん）

今回は、ま～ゆの皆さんよくご存知の元前田商店さんの奥様です。ま～ゆの会員さん達の憩いの場でもある旧店舗の場所に卓球台が、セッティングされ、ま～ゆ一色になりつつあります**ミーすけ**さんにスポットをあててみました。

今でも続けているという卓球歴は、かれこれ 30 年以上とか。日ごろ運動不足気味の方は先ず**ミーすけ**さんと一打しては如何でしょうか？「いつでもどうぞ」と、笑顔でした。

ミーすけさんは、ご存知都々平さんの奥様です。ま～ゆの会員の方と接する機会が多く、お店に訪問するといつもお茶を出していただいたり、一緒に語ったりしていたのに、実際にま～ゆに登場したのは、昨年の田植えが初参加とは……

ミーすけさんにそこを追究したところ、「夫から入会するよう誘われなかった」とのこと、それなのに、いつも笑顔でいてくれたのは、商売しているとそれは、普通の習慣だそうだ。「お見合いして一人目で決めて結婚して 30 年余つきあってきた」、前田商店の奥様のかんろくである。

出生地・・・塩田。小学校は、40 分かけて歩いて通い、中学・高校ともに、12 年間皆勤賞だった健康体。今でも“里山歩き”の会にもこの４月から入会、里山の草花の、研究？も始めている。最近登った太郎山にも、何種類ものスミレを発見。タチツボスミレは最近覚えたとの事。きっかけは、昨年のホタルコンサートのときの、草花の、散策だとか・・・。

趣味は広く、推理小説を中心に、いかなる日でも本に親しむ読書家でもある。

私が１番びっくりしたのは、‥‥**拙者親方と申すは、お立合いの中に、ご存知の方もございましょうが、お江戸を発って**‥‥で始まるうぬらう売り（大道芸の古典中の古典でアナウンサー養成所の練習メニュー）を７分間すらすらと、しかも清津峡へ行ったときのバスの中で、口上を述べたのには、ただただびっくりでありました。なんでもいとこの人に勧められて１ヶ月で覚えたとか・・・・・すばらしいかくし芸に皆様も、是非御拝聴を・・・・・。

ところでま～ゆにはいって、**ミーすけ**さんは、ジャガイモ植え、田植え、豆蒔き等、「自分が楽しいから」参加しているとか！特に田植えは「昔の思い出に浸れる」と、楽しそう。

そして世の中の不満等は、夫婦でよく文句を言い合うとか、それがいつ伺っても、ニコニコしていられる秘訣なのかなとおもいました。

本当に自然の中に、自然体でいるのがお似合いの、**ミーすけ**さんでした！！

コボル記

僕はボクだから

のび太のま～ゆな日々

上田ケーブルビジョンが作成し、全国 80 作品の中からグランプリを受賞したドキュメンタリー「僕はボクだから」をご覧いただけたでしょうか。

生まれつき右手のひじから先と左足の膝から下がない状態で生まれてきた、フクちゃんこと山崎福太郎君とは同じ地域に住み育成会で共に野球やサッカーをやってきました。今年の上田市少年サッカー大会でも、たった 12 名のにわか作りチームをディフェンダーの要として体を張ったプレーで、堂々の３位入賞に導いた立て役者です。

“障害も単なる個性„ 福ちゃんと関わると本当にそれを実感できますが、陰では本人の相当な努力とご家族の深い愛情があってこそ生み出されたものだと思います。何事にも臆することなく一生懸命取り組む姿はいつも周りの者に勇気を与えてくれます。

そんな福ちゃんはじめ 子ども達を囲む地域に住む大人達の仲間で（以前のま～ゆな日々で書きました）、地域づくりの会として立ち上げた３人の呼びかけ人の１人が福ちゃんのお父さん敦之（あつし）さんです。もうひとりの友人を加え、３名で地域内の同世代を中心に一軒一軒を回り会員を募りました。70 名を越える参加申し込みがあり、７月に総会を開くまでにこぎつけました。私たちはこの会を「元気会」と命名し、地域の世代を越えた交流の場として、また、主に地域の豊かな自然を見直し育む会としてこれから活動を始める予定です。

ひとり一人の「個性」を尊重し、排他的で息詰まるような競争万能社会ではない“もう一つの穏やかな社会„ の実現を願いつつ、ゆっくりと一歩を踏み出します。

ま～ゆ会員 自己紹介

名前	No.76 斎藤文子	No.93 くまさん(熊崎一也)
出身地	塩田	奥飛騨
血液型	B	A＋
性格	あっちこっち、いろいろなことに手を広げて、 時間がなくてウロウロしている	過激だが優柔不断
好きな食べ物	●山菜 ●もち米を使った料理 ●野菜	人間が食べるものなら何でも(特にカレー・パスタ)
嫌いな食べ物	特にありません	生クリーム･牛乳系(腹がくだるので)
好きな人	ま～ゆの人達	●寛大な人●それと女性
嫌いな人	文句ばっかり言って自分では動かない人	自信過剰かつ、人を認めない人
好きなもの	●香草(アロマポットでいろいろなエッセンシャルオイルをたいています) ●自分の庭のほかに、自治会館の庭に 30 種類ほどの花を育てています	山にあるもの
嫌いなもの	フォラー映画	街にある無駄なもの
私の夢	自由でのんびりゆっくり優雅なくらし	子供があこがれるような、かっこいいきこりに なる

名前	No.90 グッドマンこと橋詰善男	No.59 古見ひろ子
出身地	上田市 しもんじょ(下之条)	信州青木村(一揆の里) 生まれは長野市
血液型	O	B
性格	明るい(頭も)	のんびり屋だけど、あわてんぼう
好きな食べ物	自分で作った野菜を自分で料理したもの	●らーめん ●おすし ●ぎょうざ ●酒全般 ●アイスクリーム
嫌いな食べ物	肉･脂こいもの(太るから)	なし(何でも OK,食べること大好き！)
好きな人	やさしい顔の人	●父ちゃん、そして子どもたち ●笑顔の美しい人
嫌いな人	こわい顔の人	自分の事を平気で棚にあげる人
好きなもの	●スポーツ(トレッキング・スイミング・自転車･ラグビー･ダイビング) ●料理 ●野菜･花作り ●庭いじり	●酒を飲んで陽気にさわぐこと ●唄をうたうこと
嫌いなもの	●書きごと ●机にすわっていること ●寒い冬	努力 (なまけ者です…反省…)
私の夢	冬は沖縄、夏は上田に住みたい	オペラ歌手

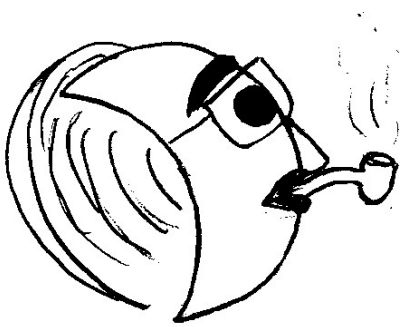
私からあなたへ

バトンタッチした №103の大野里司です

月を眺める…(太陰太陽暦)で月を楽しむ

7月2日は旧暦5月15日に当たり満月です。太陽暦の日付より大きく遅れているのは今年が旧暦では1年が13ヶ月あり、2月が2度続きます、最初の2月と閏(ジュン)2月と続く為です。言い方を変えれば、今年は満月を13回も愛(メ)でる機会があることになります？。満月が現在の暦の15日で必ずしもなくなって百年以上になります。代わりに「朔日(サク)(ツイタチ)」や「晦日(ミソカ)」が満月とゆうことが時には起こります。実際の暦では十五日でも月は丸くないのが普通です。「明治は遠くなりにけり。」の思い切実です。

たまには、日頃の喧騒から我を忘れ「月」を沁(シミ)じみ眺めるのは精神衛生上よい事とおもいます。我々の日常は外にものを追う傾向が強いように感じます。月はひとりでも、ふたりでも、時には3人以上で、それも俗な言い方をすれば一銭もかからず楽しめます。特に、満月の晩、夏なら浴衣(ユカタ)に、団扇(ウチワ)片手に下駄でもつっかけて真ん丸い月を楽しむこんな至福の時はありません。



ところで「月」は地球を一周29.53日で回ります。従ってひとつきは29日と0.53日になりますが、0.53日という日はありませんので、大まかに言えば29日と30日が交互に来ることになります。29日を「小」の月、30日を「大」の月と言いました。現在とは幾分違います。昔、1年は平年では354日で現在の太陽暦では365.25日(正確には365.2422日)に対して約11日不足することになります。それが今年は一年を13ヶ月にして調整するため、13回の満月を見ることができる理由です。

満月は夕方6時過ぎ「東」の空にゆっくりと昇ってきます。かなり低い角度なので旧市内の住民は太郎山にさえぎられ見えないかも知れません。私の住む塩田では丸子の方に低く5°位のところにみえます。あくる夜は十六夜(イザヨイ)です。にじり進むように前日より50分ほど遅れて現れます。満月よりよいと言う人もあります。月を待つこんな楽しいことはありません。さらに十七日は立待ちの月、そして、居待ちの月、臥(フ)し待ちの月(別名　寝待の月)と進みます。更に、日がたつと「有明の月」と変わります。そして、二十九日か三十日には、夕方6時ごろ、今度は下弦の月として、再び西の空低くに現れ、あくる日は「朔」で空のどこにも見えません。二日、繊月(センゲツ)です。　糸くずのような頼りない姿で　西の空の低いところにかよわい顔を現わします。三日、三日(カ)月です。前日より約50分遅れです。古代ローマ人が、　カレンデ(月が出たと叫ぶ)ことから、カレンダーの言葉ができたと、ものの本に書いてありました。うなずかれる話です。月を楽しみ旧暦と二十四節季に思いをはせ、古人の心で月を鑑賞するのも一興です。

さて、現在の太陽暦(正式にはグレゴリオ暦)と今まで述べてきた太陰太陽暦についてもう少し相互の関係についてお話します。太陽暦では1年の日数は365.25日です、一般的にはこの数字で余り問題を生じません。しかし、正確には1年は　365.2422日です。さらに端数がありますが、これ以上の議論は我々にはあまり必要ではありません。「月」の運行による日数は　前に述べたように29.53日です。12×29.53＝354.36となり、1年は354日です。単純に計算して1年で約11日太陽の運行に遅れがでます。20年で220日の差が生じます。このままほうっておきますと寒い元日が真夏、とゆう事態になります。これを避けるために太陰太陽暦では約3年に一回閏月を置きます。正確には19年に7回、閏月をおいて太陽の運行にあわせます。19年に7回、閏月を置くとは12ヶ年は1年が12ヶ月で残りの7ヶ年は1年を13ヶ月にするとゆうことになります。この7の閏月をおくことにより　19太陽年とほぼ一致します。

これを最初に発見したのはギリシャ人のメトンでこれをメトンの法則といいます。ほぼ同じころ中国でも見つけられ章法といいます。時期は紀元前2，3世紀頃、中国では戦国末期から「秦」の始皇帝の時代といわれます。日本に暦(コヨミ)が入ったのは6世紀の始めと推定されています。「継体」から「欽明」朝です。当然ながら日本のコヨミは中国からもたらされたもので中国式です。その当時の中国は世界最先端の天文学を有し観測も計算も非常に優れたものがありました。古代中国では、日本より早くから農耕生活が発展してきました。つまり土を耕す、種蒔き、施肥(セヒ)、収穫など農耕に関する時期を正確に掴む必要がありました。その為、かの国では日本以上に暦や天文についての知識が求められました。日本では暦の語源が日読みから来たとゆう説を聞いたことがあります。正確な暦を作ることは何にもまして大切でした。

ところで、今年は申（サル）年ですが、より正確には甲申（コウシン）の歳とゆうべきです。現在は平成16年某月某日、または2004年○月○日と表しますが、少なくとも明治5年の12月までは○年丙寅○月○日（この歳が寅でしたら）のように書いて日付を記しました。時には、丙の文字を省くことがしばしばありますが、寅を省略する事はありません。理由は元号がその歳の途中で変わることがあるからです。元号が現在と違いかなりの頻度で変更されることがあり、今は平成或いは西暦○年で表示し後になってこの文書が何時書かれたか判明できなくなる畏れが全くありませんが、当時はその心配がありました。それを避けるために、十干と
十二支を組み合わせ60年で一回りするよう表記しました。これを干支紀年法と称します。高校野球で有名な甲子園は大正13年に完成しました。この年が甲子（コウシまたはカッシ）の歳だからです。

十干支とは　甲（コウ）、乙（オツ）、丙（ヘイ）、丁(テイ)、戊(ボ)、己（キ）、庚（コウ）、辛（シン）、壬(ジン)、癸（キ）　のことです。 十二支は子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥からなるのはご存知の通りです。この十、十二を組み合わせて　甲子、乙丑、丙寅、の順で歳と日を表し、（時には月も表しましたが）60番目の癸亥で元に戻り一巡します。還暦がこれです。しかし実際は60干支を全部を書くのは面倒ですので　十二支のみ記することもありました。この60種類の組み合わせが中身により　忌まわしい迷信を引き起こすこともあるのは事実です。（丙午・・・ヒノエウマ）生まれの女性は亭主を食い殺すなどが典型的な例です。太陽太陰暦についてはこのあたりで終わりとします。

ま～ゆで　あんなモノ・コト　こんなモノ・コト
お助け　あぶりだし

○ おいしいおにぎりをいただきました
古見さんが　いじこさんから 100 ま～ゆで

○ おつまみをいただきました
いじこさんが　よっちゃんから 1500 ま～ゆで
（なんと 15 袋も）

○ ケーキとお茶をいただきました
いじこさんが　フミさんから 100 ま～ゆで
（おいしかったよー）

○アジサイの鉢をいただきました
ミーすけさんが コボルさんから 500 ま～ゆで

○鉢植えのウチョウランをいただきました
藤倉さん外８人が
孫の手さん(知り合い)から各 500 ま～ゆで
（可憐な花にうっとり！）

飲み会に車で送っていただきました
古見さんが　ともちゃんから 500 ま～ゆで
古見さんが　いじこさんから 500 ま～ゆで
（おかげでゆっくり飲めました）
（安心して飲めました　またヨロシクネ）

○ま～ゆの名札を作っていただきました
コボルさんとハコさんとタケちゃんが
都々平さんからそれぞれ 500 ま～ゆで

NPO 遊び塾決算の監査をしていただきました
おじゃるさんが　都々平さんから 1000 ま～ゆで
（決算書の作成もお願いしました）

○ 山菜取りの案内をしていただきました
ミーすけさんと孫の手さんが
くまさんからそれぞれ 200 ま～ゆで
（山菜のてんぷらをそこで揚げて食べました
おいしかった）

新じゃがパーティ in 須川

8月3日(日)

・場所　須川のグランド
・持ちもの　お弁当・食器など

問い合せ先　ひろ坊 ☎24-3551

ま～ゆ会報 ここに置いてあります

- フリーマーケット のんどり
  TEL 26-9355
  上田市上田原・華龍飯店となり
- ネットワークハウス 縁舎
  上田市下之郷 長福寺境内(生島足島神社隣)
- 熱　勝
  TEL 29-3880
  上田バイパス秋和 長野県酒販前
- 甲田はきもの店
  TEL 22-1272
  上田市中央4丁目1-24(木町)
- 都々平の自宅(前田商店の看板あり)
  TEL 27-1230
  上田市秋和(御団地内)
- 上田市立図書館
  TEL 22-0880
  上田市材木町1丁目
- 七田チャイルドアカデミー
  TEL 23-2952
  上田市中之条101-1 利幸第2ビル201

ま～ゆ 世話人会へ

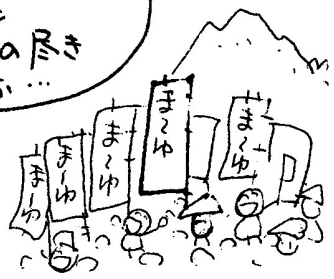
参加自由・アイデア自由
開催日時と場所は
ホームページか代表へ
連絡ください

ま～ゆで あんなもの・コト こんなもの・コト お助けあぶりだし

交換の実例をどしどし
編集へお寄せください！

あめが降ったり、猛暑だったり、ひどく寒かったり、なんだか天気がえらく気まぐれです。ま～ゆは春から秋にかけて「集い」や「イベント」が盛りだくさん。全部は出れないけど…でも、出たい！なんて複雑。今回のま～ゆな人は前田美枝子さん。似顔絵を描いたのは都々平さん。愛がこもってます♡

ホーおじ



↑これじゃ青木村の一揆だ